



【心を一つにして創り上げた2年ぶりの集会】

- 12月3日（金）、「元気にコロナをふきとばそう集会」（児童集会）が行われました。どの場面においても、発表者は真剣に分かりやすく説明したり、模範の動作をしたりしました。そして、聴いている子供たちも、**発表者の方に体を向け、私語もせず**聴いていました。そのため、ゲームやダンス等の全校で行う活動も、みんなで楽しんでいました。まさに、「**心を一つにして創り上げた集会**」でした。一人でもふざける者がいたら多くの人が大迷惑を被ることを考えれば、私は本当にすばらしい集会だったと思いました。そして、涙が出そうになりました。
- というのも、子供たちにとって今回の集会は2年ぶり（1年生は初めて）だったのですが、私にとっては井波小学校の集会は26年ぶりでした。当時、井波小学校は、富山県小学校教育研究会の音楽科の研究指定校で、よく全校で「音楽集会」を行っていました。約800名の子供たちが、心を一つにして音楽集会を創りました。
- 平成3年度の冬の集会では、私ともう一人の女性教員の二人でステージに上がって、「大きな古時計」の歌を歌いました。私たちは若手教員だったので、歌うよう依頼されたのです。「大きな のっぽの ふる時計 おじいさんの時計 百年 いつも 動いていた ごじまんの とけいさ……。」一生懸命に歌っている私たちの歌声を、全校の子供たちが聴いてくれました。よく覚えています。嬉しかったです。
- このように、全校で「**心を一つにして創り上げる集会**」は、**何十年経っても、井波小学校のよさ**だと実感したのです。**よい伝統**に感動し、涙が出るくらいになったのです。これからいつまでも、このよさを続けてほしいと切に願います。

